

令和6年度「地域学校協働本部事業」 地域学校協働活動事業の取組事例

「南相馬市地域学校協働事業」の成果と課題(福島県南相馬市)

取組の概要や経緯

南相馬市では地域と学校がパートナーとして「連携・協働」し、地域ぐるみで子どもを育み、地域社会の活性化を図ることを目的に「地域学校協働活動事業」を令和4年度から取組みを開始し、令和6年度は9小学校で実施している。



内容

- 上真野小学校・太田小学校・大甕小学校：「田んぼ体験・さつまいも収穫等の農業体験活動」
地域住民等の協力により、全校児童が年間を通して、「田植え体験」、「稲刈り体験」などの米づくりや、「さつまいもの苗植えから収穫」を行い、農業体験活動によって地域住民との世代間交流を実践した。
- 高平小学校：「学習支援活動・体験活動」
地域の退職教員が中心になり、「夏休み・冬休み子ども教室」の学習支援活動や、「習字・書初め教室」、「木工教室」、「料理教室」などの体験活動を実施した。
- 小高小学校・石神第一小学校：「放課後子ども教室事業」
地域の方々の参加と協力のもと、参加登録児童が文化・スポーツ、農業体験など、地域の資源を活用して年間を通して各種事業を実施し、子どもたちの健全育成、居場所づくりを推進した。
- 原町第一小学校・原町第二小学校・原町第三小学校：「学校支援活動」
地域住民や企業等の参画のもと、「昔遊び」「家庭科授業」「民謡教室」「ふるさと教育」「キャリア教育」などそれぞれの学校の教育課程に地域人材の活用を図りながら、子どもたちとの交流も実践した。



ポイント

- 各学校を管轄する地区生涯学習センターが核となり、「地域学校協働本部」を設置。
- 地域と学校をつなぐ地域コーディネーターを中心としたボランティアの参画により、郷土学習や、体験活動、学習支援、学校支援など、地域に根ざした活動を実施している。

成果

- 地域が学校・子どもたちを応援・支援する一方向的な活動から、双方向の「連携・協働」型の活動へと転換を図ることができた。
- 地域コーディネーターを中心に、地区生涯学習センターが、地域学校協働本部機能を果たしながら、学校や地域住民との緊密な連携により、地域の特性を活かした事業を展開することができた。

今後の方向性

- 本事業の基本的な考え方は、生涯学習センター所管区域を一つの単位として、地域学校協働本部を設置し、本部内の学校において事業を展開する。
- 今後、更に本事業内容の充実に努めながら、市内全学校への拡充を図る。